

(1) 講話概略【この1年も『お年寄りのために』を基軸に！】

去る4月9日、光寿苑で10年10ヶ月お過ごしになったK.Tさんの看取りがありました。最後の9日間、医療的点滴も施行せずに、身体に何も入らなくなっていました。ご家族が交代で傍に寄り添って下さっていた事で、「心の点滴」効果があったのだと感じています。幾度もの山を越え、ご逝去されるその日まで、ご家族は勿論、私たち職員にも受け容れていく時間をKさんが与えて下さったと受け取っております。

孫のMさんは、お葬式で「お別れの言葉」を、心を込めて読み上げておられました。感動的な温かいその文章は、後で皆さんにご披露したいと思いますが、そのMさんが、お通夜の席で私に伝えて下さった言葉をここではご紹介します。

「私たち家族、本当に光寿苑の職員さんの関わり方に感動しました。普段私は、仕事上で出入りが多いので、光寿苑の職員さんの事は知っていると思っていました。でも、全然、知らない姿ばかりで…。ババの傍にいられて知りました。夜勤や早番で関わってくれる職員さんの言葉掛けも優しく、ケアも本当丁寧で、私たち家族にも労いの言葉を掛けて下さって。どの職員さんがきてもそうだったので驚きと感激でした。光寿苑のこんな温かい職員さんに関わってもらったから、ババも幸せだっただろうなあ、長生きできたんだなあって家族で話してたんです。本当に感謝してもしきれないくらいですが、職員さんにお伝え下さい。11年、ありがとうございました。」

私からも、皆さんに、心より感謝致します。尊い関わりをして下さり、おかげさまでした。

さて、改めて、光寿会の「目的」は、『「生きる意味」を発見し合える道場にしよう』です。初代から語り継がれてきたこの言葉を基軸として、理念・心得・事業計画へと繋がっています。

2026年度の法人理念は『続・お年寄りのために』です。

この理念実現のため、職員心得5カ条を掲げています。項目のみ読み上げます。

- ① その考えが、行動が『お年寄りのためになっているのか』を基本とします。
- ② 起きている現象を、目の前の人を、そのままを受け取れる目を養います。
- ③ 自分が発している`音、を意識して行動します。
- ④ いつでも、どこでも裏表なく、相手を『尊ぶ』姿勢で取り組みます。
- ⑤ 「結果」よりも『経験から得た財産』に目を向け、尊べる人に成ります。

この5カ条は、職員の行動規範とも言えますので、繰り返し意識づけして参りましょう。

これから各部署・各ユニットにおける目標立案をして頂きます。キーワードの『お年寄りのために』という文言が目標の文章に入っていないくても、内容自体が『お年寄りのために』なものであるであれば構いませんので、関わる皆さんでよく考えて立案して頂きたいと思ひます。

さらに今年度は、直接処遇職員（看護職員・介護職員・生活課職員・ひなたぼっこ職員）中心とはなりますが、自分自身のケアの実状を振り返り基本に立ち還るため、『光寿会職員の基本の姿勢「点検表」』にチェックをして頂きます。チェック後、各ユニットのリーダー、各部署の主任に提出して下さい。これは査定ではなく、等身大の自己をしっかりと観る事に重きを置いています。

結びとなりますが、介護の人員体制の足りない部分を、他の部署職員とともに様々な形でフォローしていきたい考えです。チーム光寿会として、この1年、共に敬い、励ましあって参りましょう。

(2) 連絡事項 【講話+① = 理事長 ② = 事務課長 ③ = 苑内研修委員長】

① 本日、光寿苑の年間行事を検討する主任者会議を10時30分より行います。

② 4月21日(火)、健康診断の予定です。検査容器等、必要物品を本日中にお渡しする予定です。

③ 4月24日(金)、ポジショニングのフォローアップ研修予定です。出欠確認は18日(土)です。